

第5回ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針区民検討会 会議録

平成22年7月2日(金)

13時30分～15時40分

会場：大田区立消費者生活センター 2階

[資料]

資料1 将来のまちの姿

資料2 まちづくりの考え方(案)-1

資料3 まちづくりの考え方(案)-2

資料4 まちづくりの考え方(案)-3

資料5 アクションプランの考え方(案)

参考資料1 まちづくりの考え方の整理

参考資料2 おおた高齢者見守りネットワーク 22年度 年間パンフレット

参考資料3 大田区のサインの写真

[出席]

(区民検討会委員)15名

斉藤会長/宮澤副会長/松田委員/道音委員/飯尾委員/狹田委員/堀委員/柳谷委員/山田委員
/古澤委員/飯島委員/鷹西委員/鳴島委員/安達委員/島村委員

(庁内検討委員)15名

福祉部長/まちづくり管理課長/経営担当課長/広報課長/施設管理課長/国際都市・多文化共生担当課長代理/観光課長/高齢計画課長/障害者施設計画担当課長/子育て施策調整担当課長/大森地域計画担当課長/副参事(蒲田再開発担当)・都市開発課長代理/都市基盤管理課長/連続立体事業再開発担当課長/教育委員会統括指導主事代理/

(事務局)

福祉管理課長/福祉管理課担当係長/福祉管理課担当/まちづくり管理課係長/まちづくり管理課担当/コンサルタント

(傍聴者)3名

[議題]

1 開会

開会のあいさつ (司会 大田区福祉部福祉管理課長)

2 福祉部長あいさつ

福祉部長

今まで様々な意見をいただいたが、今回からはひとつにまとめる方向に進めればと思う。
今までの議論の内容を事務局なりに資料としてまとめたので、これをたたき台とし、話

し合いたいと思う。

3 会長あいさつ

会長

毎回熱心に話し合いをしていただいている。「大田区ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針」の「将来の姿」や「基本的な考え方」が煮詰まってきたように思う。これ以上の活発な議論をお願いしたい。

4 議題

(1) 前回の意見等について

- ①第4回区民検討委員会で質問のあった、大田区のサイン計画の中でJIS規格のピクトグラムが採用されているのかという指摘について、施設管理課長より説明。

施設管理課長

前回配布した「大田区サイン基本計画」の17ページに書いてあるように、ピクトグラムについては、JIS規格や国土交通省のガイドラインを積極的に採用しようと考えている。今年度は区立施設で積極的にサイン計画を進めることにしており、「区立施設管理整備ガイドライン」を策定した。そのプログラムにはJIS規格を採用している。JIS規格は平成14年3月に国土交通省で策定された「標準案内用図記号」の規格を用いている。

サイン計画の策定にあたっては、この趣旨に基づいて4つの地域調査をした。古い建物については従来のピクトグラムを使用しているが、今後は施設整備や修繕計画等の機会を捉え、ガイドラインに基づいて推進していきたい。

- ②大田区立施設でのサイン計画の説明(参考資料3)

について都市基盤管理課長より説明。

都市基盤管理課長

蒲田駅の周辺、区役所のサインについて紹介する。JIS規格にての対応は、細かい部分では違いがある。特に公衆トイレについては、統一されていないが、公共トイレの整備実施指針を検討しているので、サインを統一していきたいと思っている。

委員

サインに世界共通の規格はあるのか。

委員

サインの世界共通規格はない。国によって色が意味するもの、男女の表し方や記号についても違って来る。日本についてはJIS規格が制定されているが、そこでも微妙な違いがある。紹介にあったようなトイレのマークはJIS規格ではない。JIS規格の方が男女の

違いが分かり辛いので、それより分かりやすいサインを採用されているのだろう。サインを考える際は、何に基準を置くのかを計画に盛り込んでいければと思う。

委員

これから、中国人など世界中からの観光客が増えるが、エスカレーターの立つ側と歩く側を決めておかないと混乱を招くのではないかと考えている。

委員

エスカレーターでは本来、歩いてはいけない。まずは、大田区ではエスカレーターで歩いてもいいかどうかを話し合った上で、右と左のどちらに立つかを考えた方がいい。

副会長

社団法人エレベーター協会ではエスカレーターの利用について伺ったことがある。エスカレーターは真ん中に立つのが良いとされており、積載量の関係から二列に並んで乗ることは奨励していない。だからといって大田区でも真ん中に一列でエスカレーターに乗るのは難しいことだと思う。ロンドンでは右側を歩いているし、上海ではエスカレーターで歩くことを奨励していることなどから、国により利用方法は様々である。そのことから、大田区でエスカレーターの規制をするのは難しいと思う。大田区だけでなく、鉄道関係とも協力しなければならなくなる。

委員

大田区でエスカレーターを歩かないで利用するなら、歩く方は階段を使っていたかなくってはならない。

委員

そもそも「いけない」という認識について、国によって違いがある。フランスに住んでいて分かったが、危険なことに関しては自己責任である。当然のようにエスカレーターは歩き、立ち止まりたい人はどちらかを空け利用している。日本の価値観、大田区の価値観など他と違いがあることも認識しておかなくてはならないと思う。

委員

それは「(2)『将来のまちの姿』および『まちづくりの考え方』の検討について」や「アクションプラン」につながる話になる。大田区ではどういうふうに考え、どう推進していくかという話に盛り込めれば良いと思う。

エスカレーターは歩いた方が、多くの人を速く移動させることができる。上海ではその点で奨励しているのだろうが、加重バランスや振動など、構造面での対応ができてい

わけではない。

委員

一番考えなければならないのは、外国の方が羽田空港に到着した時にトラブルが起こる原因を無くすことである。日本ではどちらに立つのが一般的かを教えてあげることが親切であり、そのためのサインが必要だと思う。

委員

羽田空港のエスカレーターは重い荷物を持って移動する方が多いため、基本的に歩くことを想定されていない。どのようにエスカレーターに乗るのか、それを大田区としてどのように発信していくかを「アクションプラン」や「まちづくりの考え方」で議論し盛り込んでいくことが必要だと思う。

会長

道音委員から 125 種類の標準案内用記号のガイドブックを持参していただいたので、興味のある方は見てほしい。

(2)「将来のまちの姿」および「まちづくりの考え方」の検討について
資料の概要を事務局より説明。

将来像の考え方

について事務局より説明。

資料1 将来のまちの姿

について事務局より説明。

会長

資料に掲載されているような重要なフレーズやキーワードについて意見をいただきたい。

委員

「ひとりからみんなへやさしさがつながり、だれもが安心して快適にすごせるまち」とあるが、よく聞くフレーズである。「将来像の考え方」の説明で出てきた3つのキーワードである「まち・くらし」「やさしさ」「やくそく」のように分かりやすい言葉の方が、インパクトがあると思う。

委員

案 2 について、「やさしさが広がり」は抽象的な言葉なので、いらなと思う。「すべてのひとが」とあるが、案 1 では「だれもが」とあるので、「だれもが」に変えてはどうか。また、より短くし、「安心して快適に暮らせるまち おおた」にしてはどうか。

事務局

考えと表現がうまくつながっていないところは多分にあるが、今までのみなさんの言葉を大事にしたいというのが背景にあった。今回提案させていただいた言葉は、みなさんの生の言葉を羅列させているに近いため、どこでも聞くようなフレーズになったのかもしれない。このフレーズはみなさんの言葉であるので、さらに付け加え、減らすことなども考えられる。さらに意見をいただきたい。

委員

みなさんが話し合われている内容は、「こうあるべきだ」、「こうでなければいけない」などではなく、「当たり前なこと」だと思う。「当たり前だ」と思うことが「当たり前ではない」という状況は、みなさんも感じているのではないかと思う。

ユニバーサルデザインに関して「当たり前と思っていること」を、「みんなで知ること」に変えていければいい。交通バリアフリー法からバリアフリー新法へ変化するように、制度も変わることがあり、当たり前と思っていることが変化してくることはある。そのようなことを話し合いできたらと思う。

副会長

大田区をユニバーサルデザインのまちに変えていくことが大事である。「ひとりからみんなへ」というフレーズについて、ひとりひとりが変わることはできるかもしれないが、ひとりからみんなへ広げていくのは大変だと思う。「ひとりひとりが優しい気持ちを持ってまちを変えていこう」というように、「まちを変える」気持ちを持つことが大切ではないだろうか。「変わっていく」ではなく「変えていく」という強いメッセージを発信できればいいと思う。

会長

スローガンの言葉を修正するというよりも、「変えていく」というような観点を話し合うとまとまるかと思う。このような指摘が他にもあればいい。

委員

主体性のあるような言葉を織り込めたらいいと思う。「ユニバーサルデザインのまち おおた」という言葉を入れてはどうか。「ひとりひとりのまち・くらし」、「ひとりひとりの

やさしさ」、「ひとりひとりのやくそく」、「ユニバーサルデザインのまち おおた」というように、小さくてもユニバーサルデザインの言葉を入れたい。

委員

「ユニバーサルデザインの基本計画」なので、将来像の言葉として「ユニバーサルデザイン」という言葉を入れなくても、ユニバーサルデザインの計画であることに変わりはない。

委員

「ユニバーサルデザイン」を大きく出すのか、小さく出すのかの工夫をしたい。

会長

「ユニバーサルデザイン」という言葉を入れたほうが分かりやすいという意見だと思う。これからまた議論したい。

委員

「安心して快適にすごせるまち」はハード面だから、どうすればいいかが分かりやすい。「ひとりからみんなへやさしさがつながり」はソフト面だから、具体的にどうすればいいかが分かり辛い。このことから、ソフト面については「自分自身が心に障害を持っている」とみんなが理解し考えていけたらいいと思う。「自分自身が障害を持っている」というのは、傲慢・偏見・無知などで高みから人を見て差別することであると思う。

会長

具体的な提案があれば教えていただきたい。

委員

食べる、出す、泣く、笑う…人はみな同じ。「人の振り見て我が振り直せ」という諺があるが、自分も同じである事実を認識し、「お互い様」と考えることが重要。

その為には、幼少期からの人とかかわり合いにおける多くの経験が必要である。自らの苦勞や辛い体験によって人の心の傷みが分かる人間に育ち、又、助けてもらう等の経験によって他人（ヒト）の有難みや協力する事の大切さが分かっていく。

「高みから見ないで高みを見ていく」…（地球を守るなど）大きな目標に向かって行くのが良いと思う。又、私は個人的に（難しい事ではありますが）「か」感謝する、「き」協力する、「く」工夫する、「け」健康に気を付ける、「こ」好奇心を持つ を心掛けている。

会長

副会長が発言したように「ひとりひとりが」という意識につながると思う。

委員

大田区のまちづくりの考えとして「国際化」という視点もあり、外国人の方も含めてのユニバーサルデザインを考えているとは思いますが、羽田空港を有し国際化を進めている大田区の方針を織り込めたらと思う。

事務局

「将来の姿」では、ユニバーサルデザインを目指しているのではなく、ユニバーサルデザインが当たり前になっている大田区のまちを表現したい。「国際化」という言葉を総括的に入れるかはまた議論が必要かもしれないが、ユニバーサルデザインは外国人、障がい者や高齢者も含んでおり、それは「だれもが」につながってくる。また、「国際化」を強調したいとなれば、「アクションプラン」で具体的な政策や事業で表現できると思う。

参考資料1 まちづくりの考え方の整理

資料2 まちづくりの考え方(案)-1

資料3 まちづくりの考え方(案)-2

資料4 まちづくりの考え方(案)-3

以上の資料について事務局より説明。

会長

「まちづくりの考え方」ということで、今後の具体的な案や全体の方向性につながるの
で、ここでの議論が重要になると思う。資料2から3にスローガンや小さな目標が書か
れているが、それらの言葉遣いというよりも、書かれた内容について議論できればと思
う。

委員

最近、大田区役所の案内サインや、8階の床の素材が変わったことはご存知だろうか。東
京メトロなどでも分かりやすいサインになっている。ここで言いたいのは、具体的に考
えてはどうかということである。サイン計画を実施している大田区と、それに気づかな
い区民がいる現状から、どうすればみなさんが気づくのか、気づくためには何が必要か
といった具体的な話をできればといいと思う。

委員

ハード面の話はよく分かるが、ソフト面の「心のバリアを取り除く」についてはどう解

釈すればいいかを教えてほしい。

委員

「心のバリア」の解釈は難しく、むしろ、日々ユニバーサルデザインについて考えているみなさんから思いを大切にしていくことが大事ではないか。

委員

「心のバリアを取り除く」というのは、「自分も同じだ」と考えることではないだろうか。「自分は優れている」「自分はある人とは違う」と思う心自体が、「心のバリア」を作っていると思う。

委員

ひとりひとり価値観が違うことについて。相手がどういう人であるかを知ることができれば、もっと人を思いやることができると思う。例えば、自分の家族や友達などの身近な人が困っているときに、気づき、それに対して何ができると考えることで、思いやりが持てるのだと思う。現在、大田区だけでなく日本全国で近所づきあいが減ってきており、それは「自分だけが良ければ」という考えが引き起こしているのではないだろうか。「大田区中みんな家族」のような気持ちを持てば、お互いをよく知れると思う。障がい者の方がどういう障害を持っているのかよく知り、妊婦の方が何に困るのかよく知るなど考える必要がある。例えば、エスカレーターは右側を空けて乗ることについて、怪我や障害で左手を使えない人たちが、手すりを持たないのに無理して左側に寄りなくてはならない現状もある。また、ガイドさんが必要な視覚障害を持っている方や高齢者、子ども連れの親子でもエスカレーターに二列に並んで乗れない。他に、電車のマナーが悪い人たちもまだいるので、子どものお手本になれるよう大人の気持ちを改革できるような内容も盛り込んでほしいと思う。

会長

「まちづくりの考え方3」の「意識を持ってつながりあい、理解しあう社会」の内容でも考えられている。これは、「相手をよく知る」「理解する」ということなので、具体的にどうすればいいかを議論できればと思う。

委員

まちなかには、ホームレスという立場の人たちもいるので、その方たちに対するユニバーサルデザインでの対応が議論されていないが、どうなっているかを教えていただきたい。

福祉部長

この場では議論する範囲を定めていないので、ホームレスへの対応については、みなさんで自由に議論できればと思う。

委員

商店街にホームレスがおり、環境がよくないということで区にお願いし退去していただいた。ホームレスの問題についてみんなで考えたい。

委員

以前にも言っていたが、ユニバーサルデザインについてあまり理解できていなかった。「まちづくりの考え方」が4つから3つにまとまり、分かりやすくなったこともあるので、なるべくシンプルにまとめたほうが良いと思う。さらに「まちづくりの考え方3」と「まちづくりの考え方1」をひとつにまとめるといいのではないか。

会長

資料の表現は今までの議論を形にしたものであるので、今後どう変化する分からないが、「まちづくりの考え方」はよりシンプルであるほうが分かりやすくなると言える。

委員

ホームレスについてもユニバーサルデザインのまちづくりの考えの対象に入っていると思う。ホームレスを追い出すのではなく、ホームレスが社会復帰できるようなしくみを考えることが重要で、大田区でも福祉の分野でなされているのであれば、それをさらに進めていただきたいと思う。また、ホームレスになった人が一時的にでも避難できる場所も必要になってくると思う。

障がい者の気持ちを知ることや、みんなが社会的弱者であるという考えを持つためには、やはり教育の必要性があるのではないだろうか。大田区としてユニバーサルデザインのまちを作る時に、将来のまちを担う子どもたちやその親たちへの教育も同時に進めていかなければならないと思う。直接教育と関係していない分野の人々も参加し、大田区の教育の場を考えたいし、ここには様々な分野の人たちがいるので、この場を活用したい。

福祉部長

ホームレスは都内に最高で約5,200人おり、現在は3,800人から3,900人程度である。大田区と関係するとすれば、多摩川の河川敷には200人程度のホームレスがいるという調査結果がある。このようなホームレスの方々に対して、東京23区が連携しシェルターのような施設を設けている。福祉の計画でホームレスについて考えているが、ユニバーサルデザインではある程度焦点を絞って考えるのか、全部を網羅するように考えるのか

はこれからの議論が必要なかもしれない。自分の意見としては、ユニバーサルデザインを象徴的な計画として位置づけ、焦点を絞って考えてもいいかと思う。

委員

柳谷委員が発言した「違いに気づく」という視点は大事で、これは「まちづくりの考え方1」と「まちづくりの考え方3」の双方に関係してくる重要な考えだと思う。

「まちづくりの考え方1」について「行政が先導役で」とあるが、「区民が先導役として」がんばり、それに行政が追いつこうとしている状況が目指されるべきではないか。また、大田区ならではの問題として何があるのか、ピンポイントに取り上げて考えてみる必要があると思う。

委員

ユニバーサルデザインは「みんなが同じ」になるようにと捉えられているようだが、そうではない。「みんな違う」というところから、「同じ」にすることと「違う」ことに分けられると思う。「みんな同じ」というのはとても難しいと思うので、「違う」ということを割り切って考えれば難しくなくと思う。違いが分かれば、その違いをどうカバーするかを考えればいいのではないだろうか。

委員

道音委員や柳谷委員の発言のように、相手を知ることから「みんなが違う」ということをまず押さえ、「違う」と分かったときに一緒に過ごすためのルールや約束事、またそのしくみを考えるのが重要だと思う。さらに、ホームレスや外国人などが困ったときに解決できるしくみがあればいいと思う。

委員

大田区の特色は、山王の場合であるが、お年寄りのひとり暮らしが多いことである。そこで、地域がつながり家族のような付き合いをし、生き活きと暮らせるまちになればいいと思う。

委員

区役所のサインが変わったことに気づいたかという話と関連して。前回の検討会で大田区民であるみなさんが「おおた高齢者見守りネットワーク」を知らなかったことに驚いた。情報は発信することができたとしても、それを必要としている方々に届かない、また大田区の方々が他人事のように、知らないままでいると意味がないと思う。「おおた高齢者見守りネットワーク」やこの検討会も、もっと知られるようにしなければならないと感じている。社会福祉士の方々が行っているが、ホームレスの支援団体がある。彼ら

が中心となり月2回多摩川の河川敷に住むホームレスに水とパンを配る活動をしている。それらを通して感じたが、どこでどのような取り組みが行われているのか、区報や区のホームページに掲載されている情報を知らない方もいる。近くに情報があるのに、それに気づかず文句を言う人がいるのも実情だと思う。情報に耳を傾けることも重要だが、耳を傾けない方にも情報を伝え、広めるにはどうしたらいいのか、そのしくみを考えたい。

副会長

大森海岸駅には、大森北公園などからアクセスできるエレベーターが3台ある。歩道橋とつながっているが、エレベーター前の幅は約1.5メートルで、その歩道橋には少し傾斜があり、そのため車椅子の方が転倒する事故が起こった。そこで国土交通省に申し出たところ、歩道橋は平坦にし、階段には危険防止のためのラインが敷かれるなどの対策をしてもらえた。また、エレベーターの稼働時間は、5時から24時までと拡大された。危険に気づき、それを伝えることで改善されることがあると思う。アンテナを張り、まちを歩くことで、気づくことがあり、それがユニバーサルデザインになると思うので、ぜひまちに出てほしいと思う。

都市基盤管理課長

区役所のサインは大きくなり、見やすくなった。私たちの役目は、みなさんがまちに出やすくなるように、どうしたら困らないかを考えることだと思う。歩道橋について、国土交通省や東京国道事務所などが対策してくれたことはとても画期的であった。障がい者やまちを使う人の生の声を伝えたことが実現につながったのだと思う。まちを使いやすくするためにも、みんなにはまちに出てきてほしい。まちに出て、人々がふれあい、何に困っているのかを知る事で、改善することができる。それがプラスの循環になると思う。

その他にも、エレベーターの稼働時間は7時から21時までであったが、困っていると伝えることで5時から24時になった。このように、困っていることはまず伝えることが大事だと思う。言われなければ分からないこともあり、発言できる場を作るということで、バリアフリー点検を行っている。バリアフリーではなく、ユニバーサルデザインをしたいので、高齢者や様々な方に参加していただきたいし、それで見方が変わることもあると思う。また、違う意見を持つ方がいたとき、そこに知恵を働かせることができる。初めの頃のバリアフリー点検では、話し合いから、歩道のアールの個所にオレンジのブロックを設置することで段差を無くしかつ白杖でも分かるように工夫をした(「ゼロ段差」)。みんなが話し合うことでまちが変わっていくので、そのような機会を持つことができるようにし、障がい者の方も困っていることを伝えることができるようになればいいと思う。

委員

障がい者の声は JR や京急電鉄に届いているのではないか。

委員

よく届いている。すぐに対応できるものから対応し、時間的、物理的に難しいものならば検討会などをした上で対応をしている。

委員

そのような意見をこの場で一部を紹介してもらおうと、参考になるのではないか。

委員

羽田空港や東京モノレールなどの要望が集約され冊子となって届いているので、それを提示できるかもしれない。

委員

ユニバーサルデザインというものをちゃんと捉えていないのではないかと思う。様々なプロセス、特にスパイラルアップが重要であるので、そのような資料を次回までに事務局で準備していただきたい。国土交通省のホームページにあるバリアフリー大綱などを参考にしてもらえればと思う。

今日配布されている資料は、道音委員は読むことができない。事前にテキストを送っていただければ、読むことができると思う。それらを含め、もう少し考えていただきたい。

会長

道音委員とは個別に相談し、ユニバーサルデザインの会議ということをも十分理解していただいているので、心配されなくても大丈夫だと思う。

ユニバーサルデザインは進化するという話が出たように、議論も進化していると思う。様々な意見をいただいたが、ここで方針を決めておきたい。「まちづくりの考え方の整理」にあるように、4つの考え方を3つの枠組みで考えるということによろしいか。それではこれを方針としたい。今回の検討会では、「意識を変えていかななくてはならない」、「他人事ではなく自分の事として考えていきたい」、「気づき、理解をして思いやりが広がる」、「みんなが違うことを理解して受け入れ、それを出発点として伝えていく」、「それを通じて配慮事項が現れる」、「バリアの改善は気づき伝えることで始まる」などの意見が強く出され、ハード面、ソフト面、推進面の3つの枠組みにうまく当てはまる。フレーズについては十人十色なので難しいが、言葉の意味は今までの私たちの考えの姿を現したものだとして理解していただきたい。また、フレーズはシンプルにまとめたほうが分かりや

すぐ覚えやすいと思う。

今後は意見をさらに具体的にしようアクションプランの検討を行いたい。

事務局

「まちづくりの考え方」の3つの柱を軸にアクションプランへと進めていきたい。

資料5 アクションプランの考え方（案）

について事務局より説明。

事務局

現在、庁内で、ユニバーサルデザインの視点で事業の見直しをしている。次回は整理したものを示し、アクションプランを考えていけるようにしたい。次回以降は「将来の姿」、「まちづくりの考え方」をかたちにし、「アクションプラン」で具体的に取り組む方向性を議論できたらと思う。

会長

今回は実施計画に結びつくような、より具体的な議論をしていければと思う。課題を解決するための提案などを出していただければと思う。

事務局

前回のよう、手紙等で意見を送っていただければ、それも参考にしたい。今回は検討会の様子を公開させていただいた。また、議事録を公開するということで、みなさんの了解があればホームページに載せようと思う。これらを合わせてお願いしたい。

5 次回会議の開催について

第6回 平成22年7月30日(金)

午後1時30分から午後3時30分

蒲田地域庁舎 5階大会議室

6 閉会